

# 令和2年度 東京都立南葛飾高等学校（全日制課程）学校経営報告

## 1 今年度の教育活動の取組みと自己評価

### (1) 学習指導

- 「習熟度別授業」と「少人数授業」による学習指導については、各授業担当者の工夫により、効果的な授業実践が数多くみられた。また、若手教員を中心とした研究授業を実施し、授業力の向上に取り組んだ。
- 「朝学習」の取組みについては、全学年を対象に継続して実施し、生徒の学習習慣を定着することができた。
- 授業改善に向けた取組については、「学びの基盤」プロジェクト研究協力校、特別支援教育等における授業研究協議会を年間5回実施し、若手教員を中心とした授業改善及び「主体的・対話的で深い学び」の導入等の学習指導要領改訂への対応を検討することができた。また、新型コロナウイルス感染防止対策に係わりICT機器の活用について、更なる活用授業の増加と効果的な活用を今後検討していく必要がある。
- 在京外国人生徒向けの日本語指導の充実については、教員向け研修を5月に1回実施し、教員の指導力向上を図った。また、取り出し授業などきめ細かい日本語指導の充実の結果、日本語能力試験（JLPT）のN2に8名、N3に7名の合格者を出した。3年生の進路実現については、在京担当教員を進路指導部に配置し志望校選定、出願指導等においてきめ細かい指導を行った。在京外国人生徒支援委員会を中心に、学年担任と進路指導部との連携を推進するなど充実を図った。
- 教科「人間と社会」については、1年生を対象に、かつしかボランティアセンターとの連携により、車椅子等の体験講座、知的障害者に対する理解について講話を実施した。しかし、昨年度同様、3月の「かつしかRUNフェスタ」のボランティア活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となり参加できなかった。
- 主権者教育については、2年生対象の葛飾区選挙管理委員会と連携した模擬投票を計画したが、昨年度同様新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業により実施できなかった。

### (2) 生活指導

- 非違行為に対する特別指導については、校舎内外の巡回指導の徹底等、全教職員が組織的に取組んだ結果、特別指導対象のべ生徒数で、対前年度比76%減、一昨年度比80%減と大幅に減少した。今後も生徒の指導体制を維持しつつ身だしなみ指導を向上させる予定である。
- いじめや暴力等を断固許さない指導の徹底については、いじめに関するアンケート調査を年間3回実施して早期発見に努めた。
- 交通安全指導については、日常の登校時における指導や強化月間の実施などメリハリをつけた指導を行った。特に、傘さし運転、イヤホン装着運転等の法令違反者に対し指導を徹底した。
- 頭髪指導については、日常の登校時による指導のほかに、定期考査期間中や学校行事

の事前指導を中心に実施した。

- 遅刻指導については、日常のホームルーム担任による指導を基礎として、学年指導、生徒指導部指導、校長説諭等の段階的な指導を行ったが、進路決定後の3年生の遅刻回数が増加するなど、学年が進行するにつれて遅刻者数が増加することについて、有効な手立てを確立することが課題である。
- 挨拶指導については、毎朝の校門での立番指導において実施するとともに、講話等でも繰り返し指導してきたことにより、部活動参加が生徒を中心に定着がみられた。このことは学校運営連絡協議会でも評価されている。また、授業開始時と終了時の挨拶指導については、各教科担当の指導の徹底により、ほぼすべての授業において励行され、授業規律の確立と学習に集中する姿勢を育むことができた。
- 面談指導については、年間5回の面談週間の活用やスクールカウンセラー（SC）及び東京都教育委員会自立支援チームと連携したユースソーシャルワーカー（YSW）の活用により、カウンセリング体制の充実を図ることができた。
- 安全教育については、関係機関と連携し、1、2年生を対象として交通安全教室を実施した。また、1年生対象に携帯電話の利用に関するセーフティ教室を実施した。3年生は予定されていた安全教室が緊急事態宣言により実施できなかった。防災教育については、新型コロナウイルス感染防止対策に基づいた防災避難訓練等を4回実施した。
- 関係機関と連携した生活指導については、葛飾区立中学校と区内都立学校の生活指導担当者、葛飾区教育委員会指導室及び管内警察署の担当者が一堂に会する生活指導連絡会が年間2回実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策により全て中止になった。来年度以降も連携は継続させていく。

### (3) 進路指導

- 進路決定率については、進路指導部及びホームルーム担任が連携して進学指導及び就職指導を組織的・継続的に実施し94.4%を達成した。
- 進路ガイダンスや就職者指導等の進路行事については、1年生と保護者を対象とした進路講話、職業別ガイダンス、分野別説明会、各種模擬試験等の進路行事を実施した。また、2年生と保護者を対象とした上級学校・職場訪問、進路講演会、個別進路面接や志望理由書作成指導、各種模擬試験等の進路行事を実施した。3年生と保護者を対象とした進路行事は、大学者専門学校、ハローワークと連携し、就職希望者への面接指導、大学・短大、専門学校希望者への模擬面接指導、休業中の補講等を実施した。特に、秋以降にはYSWやハローワーク等を活用した各種面接指導、就職マナー指導等、就職内定者への指導を強化した。さらに、公務員講座を専門学校と連携して実施した。
- 大学進学希望者の学力向上については、生徒の自主的な学習を支援するために放課後自習室を開設して学習支援を行う「南葛スタディーサポート・フォーキャリア〔南葛SSC〕」と土曜講習及び模擬試験等を活用し、学年、教科等と連携しながら指導を行い、一般受験で東京薬科大学（6年生）、昭和薬科大学（6年生）、日東駒専レベル2名に合格者を出すなど成果があがった。現役生、既卒生合わせて大学、短大への合格者数計82名に増加した。（昨年度は65名）
- 進路情報の提供については、本校独自の進路指導資料「進路の手引き」を刊行し、進路意識を高める指導を行った。
- 望ましい勤労観、職業観の育成については、新教科「人間と社会」や「総合的な学習の時間」等において、関係機関と連携し、介護体験、保育体験、ボランティア活動の実

践等を計画したが、新型コロナウイルス感染防止対策に係わり殆ど実践できなかった。

#### (4) 特別活動・部活動指導

- ボランティア活動については、新型コロナウイルス感染拡大防止に係わり従来の行事が全て中止となったが、実践している下地があるため今後、取り組みは可能である。
- 特別活動の充実については、主となる体育祭や文化祭等が中止になったため、生徒の満足度が低下していることは否めない。生徒会役員選挙については多数の立候補者があるなど活性化してきており、三年生を送る会等の行事も縮小ながら生徒の自主的な運営が確立している。
- 部活動の活性化については、部活動加入率は60%で目標値を達成できなかったものの、陸上競技部は、全国高校選抜大会出場、関東新人選抜大会に複数名が出場、サッカー一部は5大会連続の都大会に出場を果たし本大会で一勝するなど競技力は向上した。

#### (5) 健康づくり指導

- 中退・不登校の未然防止については、SCやYSWと連携した教育相談機能の充実を図り、年度末の中途退学者数は8名と対前年度比20%減少した。
- 保健室の利用状況については、利用延べ生徒数が約899名と対前年度比約4%減の大幅な減少となった。今後とも、養護教諭が中心となって、ホームルーム担任や学校医と連携し、生徒の心と身体の健康を維持・増進していく。
- 健康教育の実施については、保健体育科の授業や部活動等において体力の向上を図るとともに、薬物乱用防止教室1年を実施した。

#### (6) 生徒募集・広報活動

- 生徒募集については、「その先に向かう、あたらしい南葛」をスローガンとして積極的な活動を展開し、学校説明会を年間3回、個別相談会を年間2回、夏季休業中の学校見学会を12回、9月に3回実施した。また、外部説明会に1回参加した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止に係わり学校説明会等の回数及び来校者数減少により、本校に直接来校した中学生と保護者は、前年度比約29%減の1,348名であった。
- 昨年度に引き続き、近隣学習塾訪問また、本校1年生による母校訪問と教員による中学校訪問を実施する計画があったが実施できなかった。

#### (7) 学校経営・組織体制

- 組織的・自律的な学校運営について、年間32回実施した企画調整会議を中心とした学校運営を行うとともに、経営企画室の学校経営参画を積極的に推進した。
- 学校運営の成果と課題の把握について、学校運営連絡協議会の協議委員による学校評価や教員、生徒、保護者等による学校評価等における意見を集計分析し、学校運営の改善に資することができた。
- 年間2回の授業公開、全学年合計で年間5回の保護者会等の機会を活用し、開かれた学校運営を推進する計画であったが、新型コロナウイルス感染防止対策に係わり完全実施ができなかった。
- 教員の資質・能力の向上について、「東京都教員人材育成基本方針」及び「OJTガイドライン」に基づき人材育成を推進した。
- 年間3回の服務事故防止研修を実施し、服務事故と体罰の根絶を目指した。

- 防災対策の構築について、年間4回実施した避難訓練等により、予想される首都直下型地震等大規模災害への対応や避難誘導等の体制を準備することができた。
- 「ライフ・ワーク・バランス」の推進について、出退勤管理システムのデータにより把握した職員の在校時間の管理を適正に行うとともに、「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、長時間勤務の是正と教職員の意識改革を図るよう努めた。

## 2 今年度重点目標の学校経営計画における数値目標と今年度の達成状況

### (1) 生徒の基礎学力を定着させ自信をつけさせるよう、学習指導を充実する。

#### 【学習指導の工夫改善による充実】

##### ▼ 数値目標

項 目	31年度実績	2年度目標	2年度実績
学校評価アンケートで「習熟度別授業や少人数制授業が学習内容の理解につながっている」とする生徒の割合	85.2%	80%以上	90.0%
学校評価アンケートで「本校の授業は全体を通じてわかりやすく工夫されている」とする生徒の割合	80.6%	80%以上	87.6%

(アンケートの数値は「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合)

### (2) 生徒一人一人の希望進路実現のために、きめ細かな進路指導を行う。

#### 【進路指導の充実による第一希望進路の実現】

##### ▼ 数値目標

項 目	31年度実績	2年度目標	2年度実績
卒業時の進路決定率	86.9%	85%以上	94.4%
学校評価アンケートで「進路学習や進路指導が進路選択の参考になった」とする生徒の割合	84.2%	85%以上	88.6%
大学・短大への進路決定率	29.6%	25%以上	33.8%

(アンケートの数値は「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合)

### (3) 不登校・中途退学を未然防止するために、個別相談機能を充実する。

#### 【個別教育相談機能の充実】

▼ 数値目標

項 目	31年度実績	2年度目標	2年度実績
第1学年から第2学年に進級した生徒の割合	96.2%	95%以上	98.7%
学校評価アンケートで「教員は相談に親身に対応している」とする生徒の割合	79.6%	80%以上	85.1%

(アンケートの数値は「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合)

(4) 落ち着いた学習環境を確立するために、きめ細かい生活指導を徹底する。

**【きめ細かい生活指導の徹底】**

▼ 数値目標

項 目	31年度実績	2年度目標	2年度実績
学校評価アンケートで「時間を守ることに積極的に取り組んでいる」とする生徒の割合	86.9%	87%以上	89.0%
学校評価アンケートで「身だしなみに関することに積極的に取り組んでいる」とする生徒の割合	91.4%	90%以上	92.1%

(アンケートの数値は「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合)

(5) 部活動の振興、学校行事の充実で生徒の学校生活の満足度を向上させる。

**【部活動及び学校行事の充実による学校生活満足度の向上】**

▼ 数値目標

項 目	31年度実績	2年度目標	2年度実績
生徒の部活動加入率	62.0%	65%以上	60.0%
学校評価アンケートで「学校生活が楽しく充実している」とする生徒の割合	87.4%	85%以上	90.7%
学校評価アンケートで「本校での生徒会活動や部活動は充実している」とする生徒の割合	74.8%	80%以上	81.1%

(アンケートの数値は「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合)

(6) 入学者選抜応募倍率の増加を図るため、広報活動・募集活動を積極的に行う。

**【生徒募集活動の活性化】**

### ▼ 数値目標

項 目	2年度入試	3年度目標	3年度入試
都中学校長会進路対策委員会による志望予定（第1志望）調査の志望予定者数	男子157名 女子144名	男子160名 女子160名	男子149名 女子127名
入学者選抜応募倍率（推薦）	3.46倍	3.5倍以上	4.05倍
入学者選抜応募倍率（分割前期）	1.40倍	1.25倍以上	1.35倍
入学者選抜応募倍率（分割後期）	2.60倍	1.5倍以上	1.08倍
入学者選抜応募倍率（在京外国人生徒対象）	0.90倍	1.4倍以上	1.50倍
学校公開、学校説明会、個別相談会、学校見学会での来校中学生・保護者のべ数	中学生 975名 保護者 923名	中学生1200名 保護者1000名	中学生 685名 保護者 643名
都立学校等合同説明会等校外での相談中学生・保護者のべ数	中学生 174名 保護者 174名	中学生 150名 保護者 150名	中学生 10名 保護者 10名

## 3 来年度に向けた教育活動における課題と対応策

### (1) 学習指導

- 学習指導については、「習熟度別授業」と「少人数授業」を生かした個々の生徒に応じたきめ細かい授業となっているかを検証した上で、主体的で対話的な深い学びとすることを旨とするとともに、家庭学習を促す工夫を取り入れていくことが課題である。今年度に引き続き、東京都教育委員会の「学びの基盤」プロジェクト研究協力校として研究を推進し読解力の向上等を目指した授業改善に取り組んでいく。また、若手教員を中心に参加教員を拡充し研修の場として積極的に活用しながら研究授業を活性化していくとともに、授業研究協議会を年間2回以上実施し授業力の向上に取り組んでいく。
- 授業改善については、全学年の全生徒を対象に国語、数学、英語の3教科等において、引き続き学習到達度測定指標のための教材（C l a s s i）を活用し、生徒の基礎学力と学習意欲の向上を目指すとともに、基礎学力の定着状況を様々な指標により把握し、学習指導の改善に活かしていく。また、ICT機器を活用した授業方法に関する校内研修の実施をICT委員会等で検討していく。
- 在京外国人生徒募集枠入学生徒の日本語指導の充実については、取り出し授業以外での日本語の理解を高めさせて学力向上につなげていく取組み及び進路指導が課題である。  
また、「在京外国人生徒支援委員会」や令和2年度より導入された多文化共生スクールコーディネーター事業等の組織を有効活用し、教員の日本語指導能力の向上における組織的な取組みについて引き続き改善を図っていく。引き続き「在京外国人生徒支援委員会」の定期的開催、明海大学との「教育連携に関する協定」による教員向け研修や日本語指導支援、交流会、J-T E S Tや日本語能力試験2級取得を目指した講座等の充実及び3年生の進路決定のための指導について充実を図っていく。

- 新教科「総合的な探究の時間」については、「人間と社会」での成果と課題を踏まえながら全学年が探究的学習活動の導入や指導内容の工夫を行っていく。
- オリンピック・パラリンピック教育については、引き続き都教育委員会が示している取組みを行っていくとともに、主権者教育についても葛飾区やNPO団体との連携を深め充実させる。

## (2) 生活指導

- 非違行為に対する特別指導については、従来の指導内容及び方法を継続していくとともに、特に、SNSの適切な使用等について、引き続き指導を徹底していく。また、貴重品等の紛失を防ぐために、物品管理の指導を徹底するとともに、日直の校内巡回を確実に実施する。
- いじめや暴力等を断固許さない指導の徹底については、「学校いじめ防止基本方針」を周知するとともに、いじめに関するアンケート調査の結果を迅速に把握・共有する組織的取り組みを行う。また、命の大切さの指導等を行うことにより、自殺予防等に関する取組を徹底していく。
- 安全指導については、自転車の法令順守を中心に、年間計画に基づいた学年ごとの安全指導を徹底していくとともに、これまでどおり自転車利用中の対人賠償事故に備える保険の加入を必須とするなど、条例改正に対応する指導を継続していく。
- 頭髪・服装指導については、従来の厳格な指導を継続するために、生徒指導部と学年を中心に全教員が組織的な指導を行えるよう共通理解を図っていく。
- 遅刻指導については、進路決定後の3年生や2年生の遅刻者数が増加することが課題である。2学年、3学年の担任団が中心となって、遅刻が増える時期に学年集会を行ったり、学年指導の内容を工夫したりしながら、遅刻減少に向けた指導を工夫していく。
- 挨拶指導については、毎朝の校門での立番指導や授業開始時と終了時の指導を継続していく。
- 面談指導については、スクールカウンセラー（SC）やユースソーシャルワーカー（YSW）を生徒の身近な存在としていくことが課題である。引き続き、全員面接の効果的活用と生徒向け講演会の実施等により、生徒や保護者がSCやYSWを活用しやすいよう工夫していく。また、YSWを従来のカウンセリングや就職者面談指導だけでなく、遅刻や問題行動等に関する指導やカウンセリングに活用していく方策を検討する。

## (3) 進路指導

- 進路決定率については、生徒の第一希望進路の決定率向上が課題である。課題解決のために、進路指導部が中心となって、全学年の「総合的な探究の時間」との連携を図りながら、キャリア教育充実のための3年間を通した進路指導計画を策定し、進路ガイダンス等の進路行事の充実を図っていく。
- 大学・短大、看護医療系専門学校進学希望者及び公務員就職希望者の学力向上については、今年度同様、土曜講習や南葛SSC、模擬試験等を有効に活用して学習の成果を生かした進路実現を図っていくよう指導を進めていく。
- 進路情報の提供については、進路意識の啓発と保護者への進路情報の効果的な提供が課題である。本校独自の進路指導資料「自己の進路を考えるために」を活用するとともに、各種媒体等を効果的に活用する方策を検討していく。また、PTAと連携するなどして、進学資金に関する情報提供や学部学科選択等について、保護者が生徒とともに考

える機会を増やす工夫を検討していく。

- 望ましい勤労観、職業観の育成については、「総合的な探究の時間」や「総合的な学習の時間」等において、関係機関と連携し、講演会、介護体験、保育体験、ボランティア活動の実践等を継続していくとともに、企業やNPO等の情報を収集して、多様な社会人と触れ合える機会を増やす工夫を検討していく。

#### (4) 特別活動・部活動指導

- 特別活動については、顧問教諭が引率し部活動単位で参加するボランティア活動や地域行事への参加を定着させ、回数の増加等により、延べ参加生徒を増加させるよう努めていく。
- 部活動の活性化については、加入率の増加と生徒の活動継続に課題が見受けられた。次年度以降に向けて、新入生の勧誘方法や期間の改善等について検討していく。

#### (5) 健康づくり指導

- 保健室の利用状況については、養護教諭や自立支援担当教諭等が中心となって、SCやYSW、ホームルーム担任や学校医と連携しながら、生徒の心と身体の健康を維持・増進していく。また、中学校との連携や情報共有を一層推進するとともに、入学許可予定者に特別な支援を必要とする生徒がいることを受け、受け入れに向け、都教育委員会や指導医等関係機関との一層の連携を進め、万全の態勢を構築していく。
- 中途退学者や欠席日数の多い生徒について、より効果的な指導を行っていくことが課題である。課題解決に向けて、不登校初期の指導や相談体制について検討していくとともに、SCやYSWと連携した保護者を含めた教育相談機能の充実を図っていく。

#### (6) 生徒募集・広報活動

- 生徒募集については、応募者数の増加とともに受検者の学力レベルの向上を目指し、効果的な募集対策を行っていく。また、夏季休業中の学校見学会や学校説明会の参加者数の増加を目指す。さらに、外部説明会について、参加する教員の負担の均等化に配慮しながら、可能な限り参加し、中学生と保護者の本校への来校につながるよう工夫する。また、中学校や学習塾への訪問を継続し、受検に向けて学力向上に努めている受検者を確保することを目指す。今年度、在京外国人生徒募集枠が定員を下回ったことから、次年度は在京外国人生徒に向けた情報発信や募集対策を積極的に推進していく。
- 広報活動については、学校ホームページの更新を中心として行い、部活動や学校行事の状況がわかるよう工夫・改善する方策を検討していくとともに、より分かりやすい情報発信を工夫していく。また、自然災害や交通機関の乱れなど緊急の対応が必要な場合や遠足等校外行事時の連絡対応が必要な場合のための活用や発信の方法について検討していく。

#### (7) 学校経営・組織体制

- 組織的・自律的な学校運営について、次年度も企画調整会議を中心とした学校運営を行うとともに、予算編成、経費縮減、施設管理、学校開放事業等における経営企画室の学校経営参画を積極的に推進していく。
- 学校運営の成果と課題の把握について、学校評価等における意見の集計分析や、基礎学力測定指標等の活用により、学校運営の改善を組織的に進めていく。



- 引き続き年間2回の学校公開、全学年合計で年間5回の保護者会等の機会を活用し、開かれた学校運営を推進し、保護者・地域との連携を一層推進していくとともに、近隣中学校や学習塾関係者の来校を促す企画を実施するなど本校の理解の促進と生徒募集対策につなげていく。
- 教員の資質・能力の向上について、「東京都教員人材育成基本方針」及び「OJTガイドライン」に基づき人材育成を推進していく。特に、新規採用教員をはじめとする3年未満の教員については、「東京都若手教員育成研修」により組織的・計画的な人材育成を行っていく。
- 服務事故と体罰の根絶及び個人情報に係る事故を絶対に起こさないために、服務事故防止研修を可能な限り実施し、生徒・保護者、地域住民の信頼にこたえるよう教職員の意識を高め不断の業務改善を進めていく。
- 「ワーク・ライフ・バランス」の推進について、職員の在校時間の把握を適正に行うとともに、長時間勤務の是正と教職員の意識改革を図るよう努めていく。

以 上